

活動報告(平成 30 年 3 月～31 年 3 月)

NPO 法人甲斐駒清流懇話会とは

昭和 34 年・57 年に台風による土石流災害で被災した武川・白州地域を舞台にして防災思想と環境教育の普及を主とした活動を行う甲斐駒清流懇話会は平成 11 年に環境活動団体として国土交通省、行政関係者、学識経験者、地元企業、一般市民などと一体となって活動を進め、平成 22 年に NPO 法人として活動の輪を広げました。当会には 4 つの部会を設置し、それぞれ専門分野を生かし自然災害の歴史を伝承し、地域の子供や市民に環境教育と防災思想の普及、自然災害から地域の人々の守り、生活の安全を考え、地域の発展のために尽くす活動を行っています。平成 27 年度からは北杜市南アルプスユネスコエコパークの活動にも参加しています。また、当会の活動はすべて北杜市から環境保全基金、関東地域づくり協会から助成金、砂防ボランティア協会から助成金を受けて行っています。

○ 平成 30 年度第 3 回防災フェア・甲斐駒清流ウォーク・フットパスを開催

平成 30 年 6 月 13 日、大武川 防災復興記念公園にて防災フェアを開催しました。武川・白州に起きた台風災害の歴史を学び、伝承するとともにビデオで最新の災害の様子を見て、被災体験者からの体験談を聞き、ドローンで大武川の上空から河川状況や地域の環境を鑑賞しました。身近に起きる災害の恐ろしさを体験するために自然災害体験車や降雨降体験車に乗って被災体験をしたり、災害時に働く重機への試乗をしたり、峡北消防署の協力により消防車や緊急救助車両、高所作業車への試乗など参加者はさまざまな場面で災害について学習をすることができました。当日の会場内には地元の特産の野菜で作った鍋やヤマメの塩焼き、県産ワインやパンなどの販売もあり、参加者は学びながら楽しいひと時を過ごすことが出来ました。昨年に引き続きフットパス希望者にマップを配布し、自由に白州・武川地域の自然景観を楽しみながら名所旧跡を歩いてもらいました。フェア参加者約 200 人。フットパス参加者 40 名でした。

○ 平成 30 年度 砂防校外授業が開催されました。

今年も大武川・災害復興記念公園にて白州・武川地域の小学校の 3 年生の児童とその親を招いて、災害の歴史を学び防災に関する環境教育を行いました。昨年度からドローンの見学も併せて災害について学ぶ校外授業は初めて大武川で開催してから 16 回目を迎えます。児童と保護者が参加するこの事業は学校行事の恒例となっており、校外で学ぶ実践を伴う環境教育として期待されています。溪流魚の説明や放流も行い、土砂崩れの様子がわかる自然災害体験車、300 ミリの降雨体験車や重機への試乗で被災体験をして、さらに被災体験者からの講話を聴きながら災害委について多くのことを親子は学びました。全体の記念撮影も行いました。今年度の参加数は生徒 42 名とその保護者約 40 名でした。この事業は毎年、富士川砂防事務所や山梨県水産技術センターの協力と北杜市の環境保全基金の助成を得て開催しています。

○ 溪流魚と触れ合う溪流祭りを開催

毎年、7月、9月の土曜日に道の駅はくしゅうの構内で開催する溪流祭りは子供たちと溪流魚（ヤマメ）とのふれあいを通じて溪流環境やそこに棲む生物を知ることを目的に開催しています。また同時に土石流災害の被災状況などの写真を同時にパネル展示しています。

毎年、道の駅で開催されるこの行事は観光客や地元の子供たちが日ごろ触れ合えない、綺麗な溪流に棲むというヤマメを捕まえ、味わうことのできる楽しいひと時です。今年は8月も開催し、計3回開催しました。3回の開催で一般参加者約500名、掴み取りに参加した子供は3回通じて計約150名でした。

○ 新しい川づくり委員会は県外施設の見学会を開催

*平成30年12月7~8日、東京支部の主催で、越後湯沢の砂防施設や災害被災地を見学しました。参加者は東京支部から4名、本部から3名参加し、湯沢砂防事務所の赤沼所長さんの案内で登川流路工の様子や日本で最も初期のアーチ型砂防堰堤である遺跡となっている大源太川砂防ダムを見学しました。ダム湖の周辺は遊歩道やキャンプ場など整備され、市民の憩いの場所となっていました。翌日は平成16年10月の新潟中越地震で甚大な被害を被った山古志村の被災状況と全村非難し、「帰えろう山古志」のスローガンを唱えて地域一丸となって帰村し復興を成し遂げた村民の歴史や災害の記録など、中越地震のメカニズムをプロジェクトマッピングで見せる地震模型シアターがある「やまこし復興交流館・おらたる」で見学してきました。赤沼所長さんには自ら運転、案内していただき、大変お世話になりました。

*本部主催の県外視察は平成31年1月31日、天竜川上流河川事務所の案内で長野県伊那市にある駒ヶ根フィールドミュージアムの見学会に会員20名、一般参加者2名で行ってきました。尾白川の改修工事が検討されている折、駒ヶ根市の大田切川の土石流の痕跡の残る堰堤の改修の様子やその跡地を利用してフィールドミュージアムとなっている巨石の公園や砂防情報センターや堰堤の遊歩道などをボランティアガイドさんの説明を聞きながら歩いて見て回りました。降雪もあまりなく、珍しいほど暖かい1日でした、見学者代表の感想文です。

砂防施設見学 （長野県駒ヶ根市大田切川床固群一帯）

*日時：平成31年1月31日（木）

*コース：白州総合支所発 8:30am～大田切川「文化の森公園」到着 11:20 砂防事業による施設を徒歩で見学 10:20~12:00、昼食後、伊那市伊那食品（株）「かんてんぱぱ」見学

*参加者 甲斐駒清流懇話会会員 20名、白州町台ヶ原区住民代表 2名

大田切川の床固工群（施工延長 1,200m、床固工 20 基、帯工 2 基）は水辺へのアプローチを容易にした緩傾斜護岸工事、魚道の整備、中州を保存した整備、巨石積みの床固工、巨石公園、砂防情報センターなどがある。駒ヶ根フィールドミュージアムと名付けられたこの地域の砂防工事は昭和 32・34 年の豪雨災害や昭和 36 年 6 月の梅雨前線豪雨災害による三十六災害を契機として、昭和 37 年から直轄防災事業に着手し、砂防堰堤などを建設している。（三十六災害による伊那谷被害は死者 99 名、行方不明 25 名、重軽傷者 1,155 名、家屋浸水 12,352 戸、全壊 898 戸、半壊 605 戸） 整備方針は上流部では山地から流送される膨大な土砂をコントロールするために大規模砂防堰堤（9 か所）の施工を行い、下流部では扇状地の浸食と氾濫、乱流を防止するために床固工群（2 か所）の施工を行っている。これらの施設は「天竜川上流溪流環境整備計画」の理念である豊かな自然の保全、優れた自然景観との調和、安全で親しみのある溪流の創造、生き物との共存に基づいて整備されている。大田切川親水公園周辺の施設（ロープウェイ、キャンプ場、スキー場、温泉など）も充実し、木曽駒ヶ岳に登山する人々の中継基地でもあり、年間 100 万人の観光客が訪れる一大観光地になっている。 砂防施設は自然との調和を図り、安心して憩うことのできる場所づくりとして総合的に考えて事業を展開してきた状況を見学して、多くのことを学ぶことができた研修会であった。今後の活動の参考にしたいと思う。今回親切にご案内頂いた天竜川上流河川事務所の職員の皆様、ボランティアスタッフの皆様に感謝いたします。（ 小澤建二 ）

○ 人工産卵河川のメンテナンスを行いました。

小武川の源流域に造られた人工産卵河川は平成 19 年から溪流魚の産卵と育成を促す活動として、富士川砂防事務所と峡北漁協と県水産技術センターの協力により始まった活動です。毎年秋には人工河川のメンテナンスを行います。落ち葉や雑草の除去、砂利砂の入れ替えをして河床の整備を行い、ヤマメやイワナが産卵出来る環境を整えます。今年も峡北漁協と共に砂防事務所、水産技術センターの協力を得て、会員約 20 名が参加して行いました。

○ 被災体験者の証言集のビデオ制作

昭和 34 年、57 年に山梨県を襲った台風による白州・武川の土石流災害の被災体験者は年々高齢化してきており、当時の被災体験を話す語り部が減少してきました。歴史的な災害の被災地の現状を伝承するため、語り部として活動している被災者の証言を収録し、その第 1 弾が出来ました。平成 31 年度は第 2 弾を制作する予定です。被災者の証言集は災害の歴史や自然環境について学ぶ良い教材です。平成 31 年度にはその DVD を被災地域の関係機関、学校、図書館などに配布し、土砂災害の歴史を伝える活動に役立てたいと思います。

K S K 通 信

特定非営利活動法人 甲斐駒清流懇話会

平成31年4月発行

NPO法人甲斐駒清流懇話会

発行責任者 遠山

408-0315 北杜市白州町台ヶ原
山村広場休憩室内

昭和34年・57年に台風による土石流災害で被災した武川・白州地域を舞台にして防災思想と環境教育の普及を主とした活動を行う甲斐駒清流懇話会は平成11年に環境活動団体として国土交通省、行政関係者、学識経験者、地元企業、一般市民などと一体となって活動を進め、平成22年にNPO法人として活動の輪を広げました。当会には4つの部会を設置し、それぞれ専門分野を生かし自然災害の歴史を伝承し、地域の子供や市民に環境教育と防災思想の普及、自然災害から地域の人々の守り、生活の安全を考え、地域の発展のために尽くす活動を行っています。平成27年度からは北杜市南アルプスユネスコエコパークの活動にも参加しています。また、当会の活動はすべて北杜市から環境保全基金、関東地域づくり協会から助成金、砂防ボランティア協会から助成金を受けて行っています。

○平成30年度第3回防災フェア・甲斐駒清流ウォーク・フットパスを開催

平成30年6月13日、大武川 防災復興記念公園にて防災フェアを開催しました。

武川・白州に起きた台風災害の歴史を学び、伝承するとともにビデオで最新の災害の様子を見て、被災体験者からの体験談を聞き、ドローンで大武川の上空から河川状況や地域の環境を鑑賞しました。身近に起きる災害の恐ろしさを体験するために自然災害体験車や降雨降体験車に乗って被災体験をしたり、災害時に働く重機への試乗をしたり、峡北消防署の協力により消防車や高所作業車への試乗など参加者はさまざまな場面で災害について学習をすることができました。当日の会場内には地元の特産の野菜で



防災フェア



防災フェア

作った鍋やヤマメの塩焼き、県産ワインやパンなどの販売もあり、参加者は学びながら楽しいひと時を過ごすことが出来ました。昨年に引き続きフットパス希望者にマップを配布し、自由に白州・武川地域の自然景観を楽しみながら名所旧跡を歩いてもらいました。フェア参加者約200人。

○平成30年度 砂防校外授業が開催されました。

今年も大武川・災害復興記念公園にて白州・武川地域の小学校の3年生の児童とその親を招いて、災害の歴史を学び防災に関する環境教育を行いました。昨年度からドローンの見学も併せて災害について学ぶ校外授業は初めて大武川で開催してから16回目を迎えます。児童と保護者が参加するこの事業は学校行事の恒例となっており、校外で学ぶ実践を伴う環境教育として期待されています。溪流魚の説明や放流も行い、自然災害体験車や重機への試乗や被災体験者からの講話から多くのことを親子は学びました。全体の記念撮影も行いました。今年度の参加数は生徒42名とその保護者約40名でした。この事業は毎年、富士川砂防事務所や山梨県水産技術センターの協力と北杜市の環境保全基金の助成を得て開催しています。



砂防校外授業



砂防校外授業

○溪流魚と触れ合う溪流祭りを開催

毎年、7月、9月の土曜日に道の駅はくしゅうの構内で開催する溪流祭りは子供たちと溪流魚（ヤマメ）とのふれあいを通じて溪流環境やそこに棲む生物を知ることが目的に開催しています。また同時に土石流災害の被災状況などの写真を同時にパネル展示しています。

毎年、道の駅で開催されるこの行事は観光客や地



溪流まつり

元の子供たちが日ごろ触れ合えない、綺麗な溪流に棲むというヤマメを捕まえ、味わうことのできる楽しいひと時です。今年は8月も開催し、計3回開催しました。子供の参加者は3回通じて計約150名でした。

○新しい川づくり委員会は県外施設の見学会を開催

＊平成30年12月7～8日、東京支部の主催で、越後湯沢の砂防施設や災害被災地を見学しました。参加者は東京支部から4名、本部から3名参加し、湯沢砂防事務所の赤沼所長さんの案内で登川流路工の様子や日本で最も初期のアーチ型砂防堰堤であり遺跡となっている大源太川砂防ダムを見学しました。ダム湖の周辺は遊歩道やキャンプ場など整備され、市民の憩いの場所となっていました。翌日は平成16年10月の新潟中越地震で甚大な被害を被った山古志村の被災状況と全村非難し、「帰えろう山古志」のローマンを唱えて地域一丸となって帰村し復興を成し遂げた村民の歴史や災害の記録など、中越地震のメカニズムをプロジェクトマッピングで見せる地震模型シアターがある「やまこし復興交流館・おらたる」で見学してきました。赤沼所長さんには自ら運転、案内して頂き大変お世話になりました。

＊本部主催の県外視察は平成31年1月31日、天竜川上流河川事務所の案内で長野県伊那市にある駒ヶ根フィールドミュージアムの見学に会員20名、一般参加者2名で行ってきました。尾白川の改修工事が検討されている折、駒ヶ根市の大田切川の土石流の痕跡の残る堰堤の改修の様子やその跡地を利用してフィールドミュージアムとなっている巨石の公園や砂防情報センターや堰堤の遊歩道などをボランティアガイドさんの説明を聞きながら歩いて見て回りました。積雪もあまりなく、大変暖かい1日でした、見



越後湯沢



越後湯沢

学者代表の感想文です。

砂防施設見学 （長野県駒ヶ根市大田切川床固群一帯）

＊日時：平成31年 1 月31日（木）

＊コース：白州総合支所発 8：30am～大田切川「文化の森公園」到着11：20 砂防事業による施設を徒歩で見学10：20～12：00、昼食後、伊那市伊那食品（株）「かんてんぱぱ」見学

＊参加者 甲斐駒清流懇話会会員 20名、白州町台ヶ原区住民代表 2 名

大田切川の床固工群（施工延長1,200m、床固工20基、帯工 2 基）は水辺へのアプローチを容易にした緩傾斜護岸工事、魚道の整備、中州を保存した整備、巨石積みの床固工、巨石公園、砂防情報センターなどがある。駒ヶ根フィールドミュージアムと名付けられたこの地域の砂防工事は昭和32・34年の豪雨災害や昭和36年 6 月の梅雨前線豪雨災害による三十六災害を契機として、昭和37年から直轄防災事業に着手し、砂防堰堤などを建設している。（三十六災害による伊那谷被害は死者99名、行方不明25名、重軽傷者1,155名、家屋浸水12,352戸、全壊898戸、半壊605戸） 整備方針は上流部では山地から流送される膨大な土砂をコントロールするために大規模砂防堰堤（9 か所）の施工を行い、下流部では扇状地の浸食と氾濫、乱流を防止するために床固工群（2 か所）の施工を行っている。これらの施設は「天竜川上流溪流環境整備計画」の理念である豊かな自然の保全、優れた自然景観との調和、安全で親しみのある溪流の創造、生き物との共存に基づいて整備されている。大田切川親水公園周辺の施設（ロープウェイ、キャンプ場、スキー場、温泉など）も充実し、木曽駒ヶ岳に登山する人々の中継基地でもあり、年間100万人の観光客が訪れる一大観光地になっている。 砂防施設は自然との調和を図り、安心して憩うことのできる場所づくりとして総合的に考えて事業を展開してきた状況を見学して、多くのことを学ぶことができた研修会であった。今後の活動の参考にしたいと思う。今回親切にご案内頂いた天竜川上流河川事務所の職員の皆様、ボランティアスタッフの皆様に感謝いたします。 （ 小澤建二 ）



駒ヶ根市見学（天竜川）



駒ヶ根市見学（天竜川）

○人工産卵河川のメンテナンスを行いました。

小武川の源流域に造られた人工産卵河川は平成19年から溪流魚の産卵と育成を促す活動として、富士川砂防事務所と峡北漁協と県水産技術センターの協力により始まった活動です。毎年秋には人工河川のメンテナンスを行います。落ち葉や雑草の除去、砂利砂の入れ替えをして河床の整備を行い、ヤマメやイワナが産卵出来る環境を整えます。今年も峡北漁協と共に砂防事務所、水産技術センターの協力を得て、会員約20名が参加して行いました。



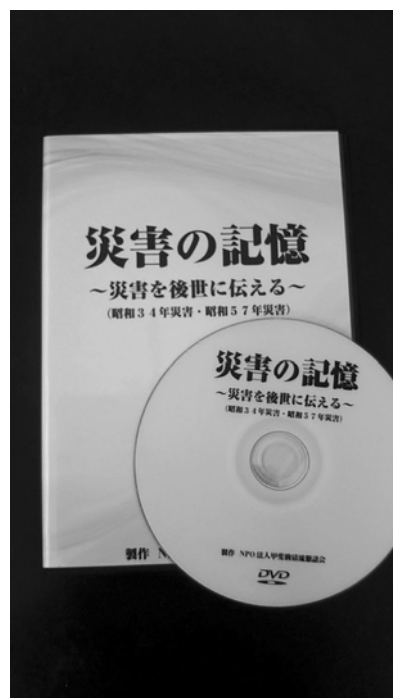
人工産卵河川メンテ



人工産卵河川メンテ

○被災体験者の証言集のビデオ制作

昭和34年、57年に山梨県を襲った台風による白州・武川の土石流災害の被災体験者は年々高齢化しており、当時の被災体験を話す語り部が減少してきました。歴史的な災害の被災地の現状を伝承するため被災者の証言を収録し、その第1弾が出来ました。平成31年度は第2弾を制作する予定です。被災者の証言集は災害の歴史や自然環境について学ぶ良い教材です。被災地域の関係機関、学校、図書館などに配布し、土砂災害の歴史を伝える活動に役立てたいと思います。



○平成31年度の事業予定

平成31年 5 月 9 日 総会

平成31年 6 月 7 日 砂防校外授業

平成31年 6 月 8 日 防災フェアーゆらみず祭り

平成31年 7 月14日 溪流祭り

平成31年 9 月15日 〃

平成31年10月 人工産卵河川メンテナンス

平成31年11月 県外自然災害の被災地視察

○会員・賛助会員を募集しています。

当会の趣旨に賛同し、私達の活動に参加して下さる方を募集しています。会員になって会の運営や企画に参加くださる方を歓迎します。希望者は下記にお申し込み下さい。また賛助会員（サポーターズ会員）は様々なイベントに参加し活動を応援して下さる方を募集しています。入退会は自由です。どなたでもいつでも歓迎いたします。

申込先 〒408-0312 北杜市白州町台ヶ原159-5 山村休憩室内

N P O 法人 甲斐駒清流懇話会事務所 又は

Faxで055-253-8779（連絡先 遠山事務局長）